

この人に インタビュー

INTERVIEW

(社)多治見法人会 会長
(株)甲山製作所 代表取締役社長

西川 一雄 氏

インタビュー

広報委員長 (株)4×4エンジニアリングサービス 松本 信廣



(株)甲山製作所

〒509-0232 可児市二野2000番地
TEL 0574 - 63 - 2722 FAX 0574 - 63 - 2729
E-mail kani@kabutoyama.co.jp
URL <http://www.kabutoyama.co.jp>

にしかわ かずお 西川 一雄 氏 プロフィール

生年月日 昭和9年4月25日
血液型 A型
家族 夫人(道恵)
長男ご夫妻・孫2人

松本：明けましておめでとうございます。例年は、法人会だよりに会長の年頭所感をいただいておりますが、今年はインタビューで、皆さんにお伝えし改めてご紹介したいと思います。今年もよろしくお願いいたします。

西川：おめでとうございます。平成20年と区切りも良く、明るい年にしたいですね。

松本：私は会長とは可児支部で役員としても長いお付き合いですので、御社について良く存知あげておりますが、改めましてお伺いさせていただきます。創業はいつ頃ですか？

西川：昭和22年に先代の社長が名古屋で自動車部品

のメーカーとして西川製作所を創業しました。

松本：現在の社名“甲山”はどのような由来ですか？

西川：会社の所在地、名古屋市瑞穂区甲山町の町名をとって昭和29年に甲山製作所を設立しました。その後31年に一人で岐阜県に来て、取引先の萱場工業さんに社内外注、人材派遣として入り、下請けの仕事などもしておりましたが、その当時は私には全権がなく、下請けではない、企業のパートナーになりたいと痛感しました。

松本：経営が革新的に本物に変わったのは、西川会長が社長に、トップに就任されてからですね。

西川：それは昭和59年ですから、会社設立後ちょうど30年で、名古屋から岐阜へ来てからは今年で約50年になりますが、脱下請から企業のパートナーに、さらには自社製品を作るメーカーにと頑張って参りました。

継続の要は経営者の志と友愛と協調の精神

松本：西川流経営、事業継続の要は何ですか？

西川：事業継続は人・物・金が必要と言われますが、中でも人、経営者、企業のトップの高い志が大切で、基本ですね。経営者の力量によって業績が左右されるのです。

松本：力量というところいろいろあるかと思いますが、一番大切なことは何ですか？

西川：それは、我社の社是に表してありますが、会社にかかわり合う人達に対し、相手の立場に立って、共に助け合い、苦しみも喜びも共に分かち合う心、友愛と協調の精神だと思います。

松本：力量とは包容力なんですね。では次世代を担う若い経営者に贈る言葉をお願いします。

西川：経営者は自分には厳しく、社員には慈愛の精神を以って接し、従業員は自分の子供だと思って接しないと良い社員は育ちません。

松本：経営の指針についてもお聞かせ下さい。

西川：品質優先・技術開発により社会が要求する商品を「より良く、より安く」をモットーに生産販売し、社会に貢献すると共に従業員やその家族の福祉の向上に寄与することを経営綱領としております。

松本：逆から言えば、従業員や家族の幸せの為にも会社はしっかりした経営をしなくてはならない。そのためには良い製品を作り技術開発をして利益を出し、従業員も潤うようにする。そして税金も納めて社会にも貢献するということですね。

西川：会社と家庭は車の両輪と同じです。双方が同調して走れば双方とも順調に行くんです。

松本：私が会長から指導いただいたことは、「銀行に払う金利があれば、社員にボーナスを少しでも多く出してやれ」と言われたことでした。

西川：社員が自慢できる会社に、また女性にこの会社の社員となら結婚してもいいわと思われる、社会に信頼される会社でありたいと努めています。

松本：甲山の社員なら生活力もあるし、結婚しても大丈夫とですね。

改めまして、甲山製作所の業種をお伺いします。

西川：主にはOA機器や精密油圧機器・輸出用機器の製造販売です。OA部門では開発・設計・生産・販売までのトータルメーカーとしてお客のニーズに対応した製品造りをしております。

松本：やはり一番大切なのは品質だとお考えですか。

西川：私が言う品質優先というのは、顧客への良いサービスのことを言っているんですよ。良い品質とは良い仕事をするということです。

松本：品質にはソフトとハードがあって、ハードは良くて当たり前、高度な技術も当たり前。ソフトの部分でお客様が甲山に仕事を頼めば安心していられることが大切で、納期も守られる。たとえばクレームがあっても共にすぐ解決できる。というように、アフターフォローが出来なければだめだということですね。

西川：そのとおりです。

政治・経済・社会・文化が バランスよく向上して国が栄える

松本：次に地域の活性化には何が必要だとお考えですか？

西川：私は大きな目でいつも見っていますが、町づくりとは政治・経済・社会・文化がそれぞれそろって向上する、その時に初めてできることであって、先程の車の両輪と同じでそれぞれがバラバラでは住みよい町にはならないのです。



松本：例えば、いくら経営者が頑張っている、それに伴った、皆が納得できる政治でなければいけない。また政治と経済が融合していても、文化が育たなければだめですね。

西川：国が栄えること住みよい国になるということは、政治・経済・社会・文化のバランスをとりつつ向上することです。各オピニオンリーダー、特に政治家が要になってリードしていかなければなりません。町も一緒ですね。

松本：そうすると、政治家が見苦しくては他が良くても発展しませんね。隠ぺい・偽造・疑惑、毎日のニュースでこれらの言葉が飛び交っておりますから、今が一番悪い、そうですね、会長。

西川：今は官僚もだめですから、話にならないね。何とかそれら4つの各オピニオンリーダーの人材を出来るだけ多く集め、自分たちは自分たちの手によって、住みよい町づくりをしたいものです。

松本：次に、地域で出会った人物で、この人だという人はどなたですか？

西川：可児では俣メトーカケフの掛布静雄氏、東濃地域でいえば前畑陶器俣の坂崎重雄氏ですね。

松本：掛布さんを挙げられた理由は何ですか？

西川：彼は絶対愚痴をこぼさない人でした。まわりが不況だ不況だといっても、そんなことは当たり前だと言って、絶えず率先して前へ進み、泣き言はいわない。立派だなあと思いました。そうかと思うと、困ったときには私に「社長、こういうことがあるがどうだろう」と率直に意見を求めたりして、素直な人でもありました。静雄という名前のとおりの人でしたね。

松本：では坂崎重雄さんに見習うべきところは？

西川：坂崎さんは法人会の会長としての大先輩であり優れた経営者で、人を育てようとする、人の面倒見を本当に良くされる方ですね。そして自分の利益を優先する人ではない。付き合って良く分かりました。

松本：我田引水ではない、人を利用する人ではなく、地域のために尽くす人なのですね。他にはどなたがございますか？



西川：今は亡き正眼寺の谷 耕月老師と年に2～3回お会いしていましたが、彼はいつも人を育てる心を教えてくれました。

それは、人を愛する、生き物を愛するという心です。よき経営者は「人・国・地球」を愛する理念を持って行動する、ということを私の座右の銘としております。それから守護神について、私も以前は、守護神は本当に存在するのだろうかと疑っておりましたが、実は60歳になった頃から分かるようになりました。守護神は、心の美しい人にはつくが、目先の損得で処理する人には寄ってこないのです。ある時は人間の姿かたちで、又ある時は犬であったりまた植物のかたちであったりもしますよ。松本君にも今までピンチがあったでしょう。そういう時、必ず助けてくれるのです。

松本：そうですね。守護神の存在を信じる、それは会長の人生観ですね。

西川：人生は自分との戦いであり、世のため人のために尽くすことによって、自分自身も救われる。これも私の人生観です。

また私は趣味として自然界と会話すること、魚釣りをしたり山へ行ったりして、そこで私が本当に学ぶのは自然界の力、自然から教えてもらうことがたくさんあります。

松本：趣味の魚釣りや狩猟は、殺生ではなく自然と会話する手段であり、自然の恵みをいただきながら自然を大切にすると、ということですね。

資質向上には意識改革が唯一の方法

松本：最近読まれて感銘を受けた本があれば、教えて下さい。

西川：元総理大臣の小泉純一郎氏の「小泉の勝利 メディアの敗北」です。(上杉隆 著)これは日本を別の角度で見た内容で、彼は日本を建て直すキーマンだった。



松本：あの方は、自分の理想の為には何人にも囚われない人でしたからね。総理在任中も私が悪ければ私を替えてくれ、と言っていましたね。

西川：彼の心境がこの本を読んで良く分かりました。「勇気のある人は火中の栗を好んで拾う」、私もそういう人間なので、こんなことに手を付けなくても...と社員がハラハラしていると思うのですが、この本を読んで小泉純一郎氏に共感を持ちました。日本人の資質は下降しているが、これを向上させる唯一の方法は意識改革であると思います。

松本：人材育成、意識改革に力を入れてみえますね。

西川：社長室の隣で、甲山塾と名付けておりますがSMIの受講、意識改革向上訓練の場として、幹部社員育成のため塾を設けています。1999年から毎年2期、1期には6～8名が参加し、第11期まで終了して、延べ74名が受講しました。現在第12期を開塾しております。

松本：次に、21世紀の業界は何を重視すべきでしょうか。

西川：21世紀は不可能を可能にする時代であり、その要になるものは衣・食・住・エネルギーの各自給率を100%クリアすることです。

松本：食とエネルギーの自給率は特に悪いですからね。

西川：しかし別の、医学は100%合格です。人生50年から約90年に、40年も寿命が延びたのは医学の発達賜物です。人口1億以上の国では日本がはじめてで、大きな進歩です。健康で長生きしたいというのが人類全ての願いです。

松本：食は少し危ういし、自給率も40%程度しかない。食の安心・安全性もおかしい。

西川：エネルギーは代替えを作っていくこと。太陽・風力・バイオで、これからやっていかねばいけませんね。

松本：原子力についてはどう思いますか？

西川：原子力はほどほどにしておかないといけません。できればない方がいいのです。今はそんなことも言っておれませんが、破壊することに力を入れてはいけません。

松本：原子力は必要悪ですね。私も同じ考えです。原子力と遺伝子工学は、植物にはいいけれど人間にやってはいけないと、神も言っていますよね。

西川：私も法人会の役員として長く努めて参りましたので、また次の機会には今後重要視されるであろう衣・食・住・エネルギーの自給率100%を実現するための具体的な施策と法人会活動を結びつけてお話をさせていただこうと思います。

松本：是非またお伺い致します。

西川：今年はe-Tax活用の推進と、公益法人制度改革への対応として、公益事業の拡大に向けて、役員を始め会員の皆様のご理解とご協力を是非ともお願いしたいものです。

松本：本日はありがとうございました。



可児工場全景